

6 アニマルセラピー

1 サマリー

1. アニマルセラピーの概要

アニマルセラピー (animal therapy), 動物介在療法 (animal assisted therapy) は、動物と人との交流がもたらす健康、自立、生活の質の改善を目的に、補助療法・非薬物療法あるいはケアの一環として臨床で行われている活動である。

アニマルセラピーの対象者は、うつ病や統合失調症、心的外傷後ストレス障害などの精神疾患の患者、情緒障害や学習障害を伴う子どもでもある。

アニマルセラピーの利点として、生理的利点・心理的利点・社会的利点の3点が挙げられる。その人に内在するストレスを軽減させたり、あるいは当人に自信をもたせたりといったことを通じて、情緒的安定、自主性や意欲の向上、社会性の改善、患者の自立と適応を高めることを目的としている。

2. 使用上の一般的な注意事項

- ・介入方法が異なる可能性がある。
- ・施術者による効果の違いがある可能性がある。
- ・動物の訓練状態が異なる可能性がある

3. 論文報告 (エビデンス) における課題

- ・症例数が少ない、試験のデザインが不明などのエビデンスが低い論文が多い。
- ・無作為化比較試験が少なく、システマティックレビューがない。
- ・方法、介入方法が統一されていない。
- ・アウトカムの評価が統一されていない。

4. 論文報告としてはないものの、「教科書に記載されている」「すでに一般的に知られている」といった副作用や禁忌事項 (=グッドプラクティスポイント: GPP)

- ・人畜共通感染症
- ・動物による外傷、咬傷
- ・禁忌事項
 - ①開放創がある患者、皮膚疾患をもつ患者
 - ②動物に対するアレルギーを有する患者

5. 文献検索の条件

[検索データベース] PubMed

[検索キーワード] 「Animal therapy」「Animal assisted therapy」「Animal assisted」

[検索期間] 2000年1月1日～2014年12月31日

[検索日] 2015年5月28日

[検索式]

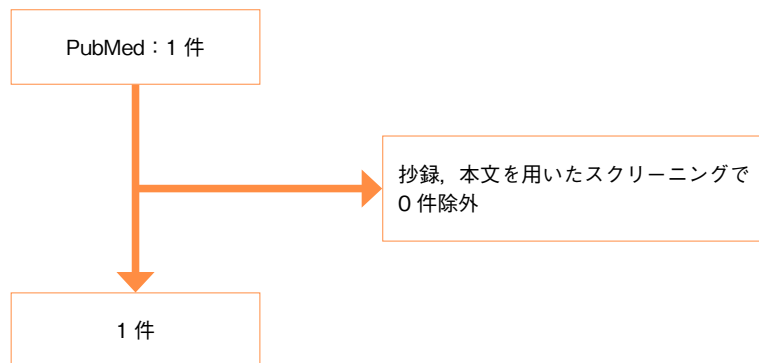
- ▶ システマティックレビュー：0件

Animal therapy OR Animal assisted therapy OR Animal assisted AND (cochrane database syst rev[ta] OR meta-analysis[pt] OR meta-analysis[ti] OR systematic review[ti]) AND Cancer AND 2000/01/01[dp]: 2014/12/31[dp]

- ▶ 無作為化比較試験：1件

Animal therapy OR Animal assisted therapy OR Animal assisted AND (Randomized Controlled Trial[pt] OR Randomized Controlled Trial[ti] OR Randomised Controlled Trial[ti]) AND Cancer AND 2000/01/01[dp]: 2014/12/31[dp]

●文献検索とスクリーニングのフローチャート（無作為化比較試験）



2 臨床疑問

▶ 臨床疑問 6-1

アニマルセラピーは、がんに伴う身体症状を軽減するか？

1 痛み

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

2 消化器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

3 呼吸器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

4 泌尿器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

5 倦怠感

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

6 睡眠障害

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

7 その他

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

▶ 臨床疑問 6-2

アニマルセラピーは、がんに伴う精神症状を軽減するか？

1 不安

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

2 抑うつ

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

3 その他

本臨床疑問に関連する無作為化比較試験が1件ある。

Johnson ら¹⁾による無作為化比較試験では、気分、主観的健康感、一体感について調査されていたが、対照群と比較して統計学的有意差を認めなかった。

以上より、アニマルセラピーは、がん患者の精神症状を軽減するかもしれないが、根拠は十分ではなく、有用であるとは結論づけられない。

▶ 臨床疑問 6-3

アニマルセラピーは、全般的な QOL を改善するか？

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

▶ 臨床疑問 6-4

アニマルセラピーは、何らかの望ましくない有害事象を引き起こすか？

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

▶ 臨床疑問 6-5

アニマルセラピーは、検査・治療等に伴う有害事象を軽減するか？

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

▶ 臨床疑問 6-6

アニマルセラピーは、予後を改善するか？

1 全生存率 (total mortality)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

2 原因特異的死亡率 (cause-specific mortality)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

3 無病生存率 (disease-free survival), 無増悪生存率 (progression-free survival), 奏効率 (tumor response rate)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

(高世秀仁)

【文献】

- 1) Johnson RA, Meadows RL, Haubner JS, et al. Animal-assisted activity among patients with cancer: effects on mood, fatigue, self-perceived health, and sense of coherence. *Oncol Nurs Forum* 2008; 35: 225-32